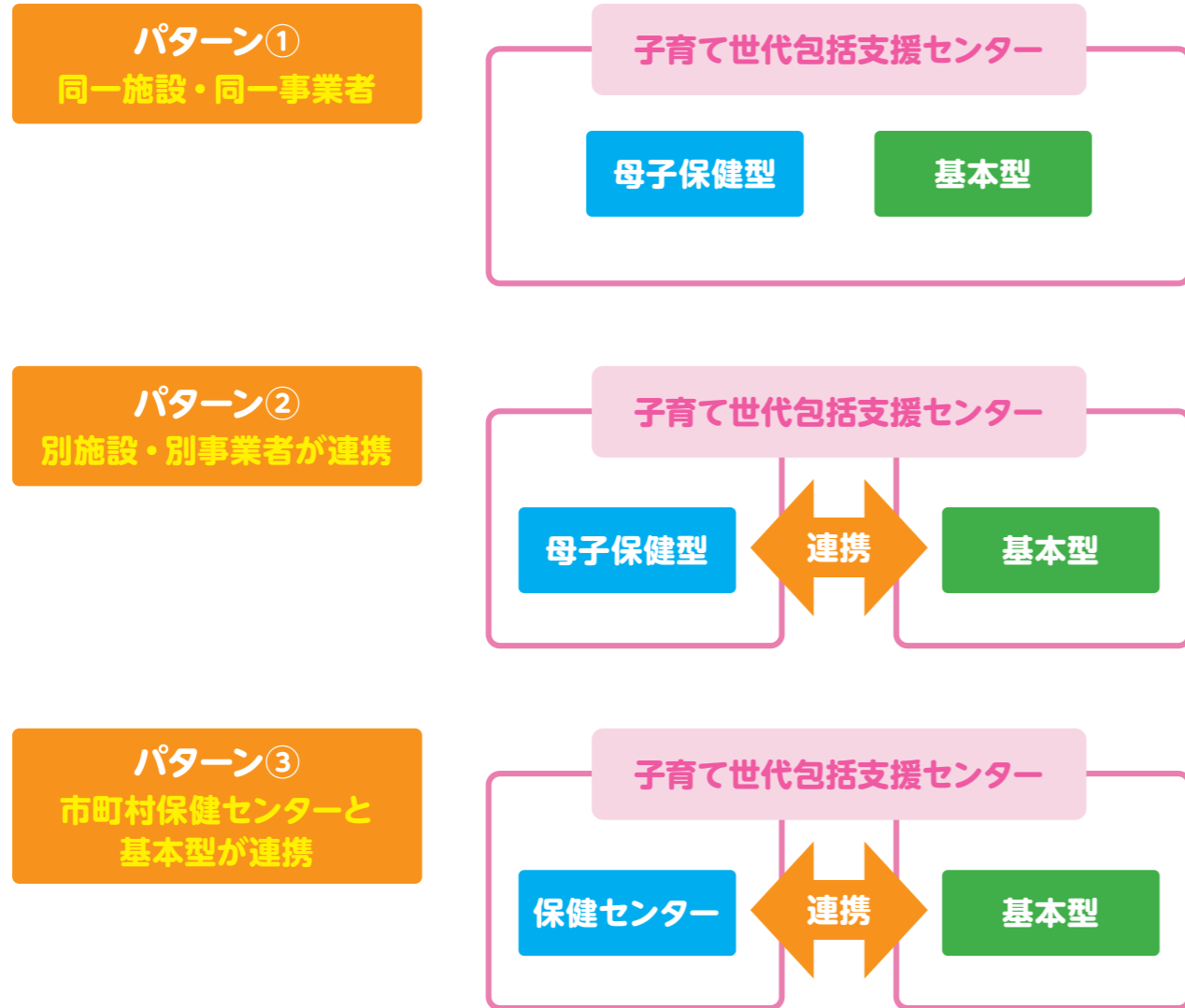


子育て世代包括支援センターの連携パターン例

子育て世代包括支援センターと地域子育て支援拠点との一体的な実施が望まれます。
 ※利用者支援事業基本型は、現在約半数が地域子育て支援拠点に配置されています。



出典：『地域子育て支援拠点で取り組む利用者支援事業のための実践ガイド』
 橋本真紀 他編著／NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 編集（中央法規出版株式会社）

令和元年度厚生労働省科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業
 「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に関する研究」

メンバー： 国立成育医療研究センター ころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科診療部長 立花良之（研究代表者）
 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会／認定 NPO 法人マミーズネット 中條美奈子
 NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト 小笠原憲子
 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会／NPO 法人せたがや子育てネット 松田妙子（研究分担者）

協力： NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

問い合わせ先： 国立成育医療研究センター ころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 事務局
 E-mail: mental.ncchd@gmail.com TEL: 03-3416-0181 (内線 7636) FAX: 03-3416-2222



母子保健担当部署と地域子育て支援拠点の連携

～妊娠期からの切れ目のない支援のために～

このリーフレットは、令和元年度厚生労働省科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に関する研究」研究班が企画した、NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会と厚生労働省子どもの心の診療ネットワーク事業共催の「地域子育て支援拠点と母子保健分野の連携を考えるワークショップ」での意見交換を参考に作成しました。母子保健担当部署の方々や地域子育て支援拠点のみなさんの実践の参考にさせていただければ幸いです。

地域子育て支援拠点とは

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的としています。地域子育て支援拠点事業は、各市町村を実施主体として、地域の実情に合わせた多様な場所で開設され、全国に7,400か所以上に広がっています。

母子保健担当部署と地域子育て支援拠点はこんな形でも連携できる！ ～連携の事例集～

① 両親学級（休日）

保健所と協働で両親学級を 地域子育て支援拠点で開催

- *月1回（日曜日）地域子育て支援拠点で開催
- *対象：第1子出産予定の妊婦さんとその家族
- *拠点スタッフ、母子保健担当保健師、栄養士、助産師が連携して開催
- *講話と昼食の試食、抱っこ・沐浴体験実習を行う
- *プレパパ・プレママのグループワークに、来館中の先輩パパ・ママが妊娠・出産・育児のロールモデルとして参加（拠点スタッフがファシリテート）
- *拠点内探索をし、利用方法を知る、また親子の様子を見学



② 健康相談と仲間づくりの事業

母子保健の事業を 地域子育て支援拠点で実施

- *月1回、地域子育て支援拠点で開催
- *対象：妊婦と乳児とその保護者
- *拠点スタッフ、自治体の保健師・栄養士、助産師などが連携して開催
- *保育ボランティアなど地域の人たちが参画
- *乳児の体重計測を行い、希望者は保健師・栄養士・助産師にその場で相談
- *専門職のアドバイスと参加者同士の交流の両方を行う



③ ふたご・みつご広場

多胎児育児支援を 地域子育て支援拠点で実施

- *月1回、地域子育て支援拠点で開催
- *対象：妊婦と乳児とその保護者
- *拠点スタッフ、自治体の保健師・栄養士、助産師などが連携して開催
- *保育ボランティアなど地域の人たちが参画
- *体重・身長計測を行ない、希望者は保健師・栄養士・助産師にその場で相談
- *専門職のアドバイスと参加者同士の交流の両方を行う



互いが連携することでこんな良い点が

保健師・拠点スタッフにとって

1. 気になる妊婦や家庭、支援を必要としている親子に双方が気づき、出産・育児と切れ目のない支援を保健師、地域子育て支援拠点との連携でできる。
2. 保健師と拠点スタッフの情報交換の場となり、お互いの具体的な支援の内容がわかり、親子に対し適切な支援の利用方法等アドバイスできる。
3. 子育て・感染症情報等行政の持っている支援策を、適切な時期に保護者に伝える場とできる。
4. 親子の日常的な様子を見ながら支援できる。

参加者にとって

1. 来館している乳幼児との触れ合いや先輩ママやパパの話を見聞きすることにより、子どものいる生活をイメージできる。（妊娠・出産・育児の見通しが持てる）
2. 拠点という自分にとって身近な場所で保健師から専門的な支援を受けることができ、子育てへの安心感につながる



準備と進め方 ～互いが連携していくために～

母子保健と地域子育て支援拠点が連携していくことで、妊娠期からの切れ目のない支援が実現可能となり、出産当時から親子が地域に居場所と支えを得て生活していくことができます。
ここでは連携のための準備について考えてみましょう。何から始めるのかに正解はありません。

母子保健、地域子育て支援拠点それぞれの担当課内の理解を深める

連携で何が得られるのかを、まずは担当課内で共有しておくことが大切です。

地域の子育てにかかわる機関で連絡会議を持つ

親子の暮らしを地域で支えるためには関係機関との連携が必要となります。

保健師、地域子育て支援拠点職員合同で研修を行ってみる

顔を合わせ共に課題を考え合うことで、連携が始まります。

要保護児童対策地域協議会の構成員に地域子育て支援拠点を

地域子育て支援拠点は、特に乳児期の虐待予防に大きな力を発揮します。

各々が行ってきた健診やイベントなどを共同で行ってみる

すでに行われている事業をより一層地域ニーズに合ったものにすることができます。

ケースごとに連携を深めていく

連携の必要を感じたら遠慮なく声をかけていきましょう。